

「得意を伸ばし苦手を克服するために」

【誰にもある「得意」「不得意」】

何度もこのコラムで書いたように、私はとても英語が苦手でした。原因は単語が覚えられないこと。中学時代、先生方から「何度も書いたら覚えられる」と言われ、何度も書きましたが、すぐ飽きてしまうし、覚えられない。一方、友達の中には、英語が得意で、書くこともせずに、すぐ単語を覚えてしまう子がいました。その子は読んだ教科書が画像のように頭に残っていて、そのページの何行目の左から何番目に書いてあった単語とも言えるというのです。当時、こういう人が「頭がいい」ので、「頭の悪い」自分には覚えられないのだと思っていました。でも、この考えは間違っていました。誰にでも「得意」「不得意」があるのです。私は自分の特性の理解が足りず、得意なことを伸ばす方法を知らなかったのだと、今ならわかります。

【MI理論とは】

ハーバード大学のハワード・ガードナー教授により提唱された「人間は誰もいくつもの知的能力を持っている。長所やプロフィールが個人によって違うように、人によってある能力が強かったり、ある能力が弱かったりする」多重知能（マルチプル・インテリジェンス MI）理論という考え方について、少し詳しく説明します。

現在、この理論では、知的能力を8つに分けて考えます。自分が何の能力が高いのかは、自分は何が好きなのかにはほぼ一致するそうです。他の人との比較ではなく、自分の中での比較です。

- | | |
|-------------|--------------------------|
| ① 言語・語学的能力 | 話したり、書いたり読んだりするのが好き |
| ② 論理・数学的能力 | 数学が好き 整理や順序だてて考えるのが得意 |
| ③ 視覚・空間的能力 | 見たまま覚えたり、空想したりするのが得意 |
| ④ 音楽・リズム的能力 | 音楽が好き 演奏したり歌ったりするのが得意 |
| ⑤ 身体・運動的能力 | スポーツが好き 動き回るタイプ 手先が器用 |
| ⑥ 対人的能力 | 人と話すのが好き 友達が多い 感情をよむのが得意 |
| ⑦ 内省的な能力 | 自分のペースで行動する 自分の興味に忠実に活動 |
| ⑧ 博物的能力 | 野外で動物といるのが好き 天候・地理が得意 |

ちなみに私は、①⑥が高く、②④⑤がまあまあ、③⑦⑧が苦手です。先述の単語をすぐ覚えられる子は③の能力が高いことをうまく利用し、その教科の内容を理解することに繋げていたということなのです。

だから私自身は、英語を勉強するなら、苦手な③そのまま覚える、という方法ではなく、①知らない単語はとばして、英語の物語をどんどん読む方法や、⑥人と英語で会話する、人と英語について対話するなどの方法で学習すべきだったのです。単語を覚える方法を1つしかないと思い込んでいたのが失敗でした。浪人して初めて、自分に合った英語の力を高められる方法に気づいたのです。

最近、学習塾のCMで「学習の方法を教えます」といったものを見かけます。もちろん学校では学習方法を教えています。ですが各教科担当が生徒と1対1で話をする場面は少なく、担任との懇談会等の機会も限られています。だから生徒全員1人ひとりに、学習方法をきちんと定着させられているかということ、残念ながら完璧とは言えないかもしれません。今年度は評価の観点Ⅲ「学びに向かう力（各教科の力を高めようとする主体的態度）」の相談のために教育相談週間を実施しましたが、それも学期に1度です。ぜひ、生徒の皆さんには、積極的に苦手な教科や担任の先生に、自分から相談に行ってほしいのです。

もちろん、その先生の学習方法のアドバイスは、その先生自身や生徒を指導して成果があった経験からきていることが多いので、自分と合うものかどうか自分で確認することが必要です。昔、音楽を聴きながら学習することを「ながら勉強」と呼び、ダメな学習スタイルの例として挙げられていましたが、④が得意な子にとっては有効な学習方法だということがわかっているそうです。でもそれは、④が得意でない子には当てはまらないのです。あくまで、自分の学習スタイルは、自分で見つけ、作り出すものです。各教科の先生からアドバイスをもらいながら、自分の得意を伸ばし苦手を克服するための指針として、MI理論の考え方を役立ててみてください。

【不定期コラムNo.22】へつづく

第三中学校ホームページ

では、子どもたちの様子やお知らせなど情報発信しています。ぜひご覧ください。これまでの不定期コラムも「校長室より」のコーナーでご覧いただけます。

<http://www.kaizuka.ed.jp/dai3-jh/>

貝塚第三中学校HP



貝塚第三中学校HP